

# 一中学生の最善最高の自覚と実践 NO11(R6.2.14)

## ○校長より 『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』を目指して②

早いもので、今年度もあとわずかとなりました。PTA総会でも申しましたが、今年度、「学力」と「不登校」という本校の大きな課題に関して、保護者・地域の皆様方のご理解ご協力とこれまでの職員の精一杯の取り組みによりやっと改善傾向が見えてきたところです。しかし、目指す学校に近づくためには、まだまだ取り組まなければならないことがたくさんあります。特に、「信頼関係」(子供たちと先生の信頼関係、学校と保護者・地域の皆様との信頼関係)の構築については、今後も大切にして取り組まなければならないことの一つだと考えています。学校として、次のようなことをこれまで以上に大切にしながら、目指す学校づくりに向けて取り組んで参ります。

### ① 先生から「挨拶・声かけ」をしていく

まず先生から子供たちへ挨拶・声かけをすることにより、話しやすい環境、相談しやすい環境づくりを心がけたいと思っています。

### ② 「寄り添う姿勢」を持って子供たちと接する

子供たちの行動には何らかの理由があります。特に、好ましくないとされる行動をした場合、「なぜそのような行動をしたのか」「自分の行動をどう思うのか」等、子供たちにしっかり聞き、どうすべきかを一緒になって考えていく姿勢で子供たちと接していきたいと思っています。

### ③ 子供たちの頑張っているところ、できているところをしっかり見ていく

子供たちのできていない部分はよく目につくものです。しかし、挨拶であったり掃除であったり、家庭学習等もそうですが、頑張っている子、ちゃんとできている子もたくさんいます。子供たちのよい点もしっかり見て、認める声かけをしていきたいと思っています。

### ④ 先生同士の連携を深める

子供たちを一中全部の先生で見守るためには、子供たち一人一人の状況を先生たちが知っておく必要があります。先生たちの連携を深め、情報共有を図りながら子供たちを支援していきたいと思っています。

以上のようなことに取り組んでいきたいと考えています。今年度残り少ない日々を、子供たち・保護者地域の皆様、学校職員等一中に関わる全員が楽しく過ごせることを願っています。どうぞよろしくお願いいたします。



一月三十日に行われました  
「八代型小中一貫・連携教育実践校」  
実践発表会の様子です。←